

未来を創り出す力 ★ グローカルリーダーの育成

<コンソーシアム>

北海道教育委員会

胆振総合振興局・登別市・登別市教育委員会

登別社会福祉協議会・登別商工会・登別観光協会

室蘭工業大学・全国大学政策フォーラム in のぼりべつ

キャリアデザインの確立

前期課程 地域について学ぶ

- ・地域ウォッチング
- ・理科・社会科見学
- ・世界と日本・北海道のつながり
- ・SDGsについて学ぶ

4回生 地域課題探究

- ・地域の課題がテーマ
- ・地域と連携
- ・グループ単位
- ・提案⇒アクション
- ・研究の継続

5回生 キャリア課題探究

- ・テーマ設定は自由
(継続・興味・関心)
- ・個人研究
- ・論文6000字
- ・実生活・社会と関連
- ・アメリカ・カナダ研修でのプレゼンテーション

6回生 研究成果の発信

- ・英語論文・プレゼンテーション作成
- ・ビジネスプラン作成
コンテストへの応募
- ・卒業後のアクションプランの作成

グローバルな視野を醸成する取組

海外フィールドワーク、テレビ会議、
イングリッシュキャンプ、
アジアの架け橋
アメリカ・カナダ海外研修、



全教員が
課題研究の
アドバイザー

医療

防災

産業

地域の課題解決
探究学習
5つのユニット

少子
高齢化

観光

グローバルな視点をもってコミュニティを支える地域のリーダー

ふりがな	ほっかいどうきょういくいいんかい	ふりがな	ほっかいどうのぼりべつあげびちゅうとうきょういくがっこう
管理機関名	北海道教育委員会	学校名	北海道登別明日中等教育学校

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名, 代表者名

管理機関名：北海道教育委員会

代表者名：北海道教育委員会教育長 佐藤 嘉大

(2) 学校名, 校長名, 研究を実施する学科

学校名：北海道登別明日中等教育学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：吉村 教賢

2 取組内容

前期課程では地域やSDGsについて学習し、4年生以降の課題探究は、SDGsの視点と関連させて探究活動を進める。胆振地域をフィールドとして課題探究を行い、登別市や胆振総合振興局などコンソーシアムの関係機関と連携して学習し、地域を活性化させるための解決法の提案と実践を行う。生徒が扱う課題は北海道を始め、グローバルな社会課題と関連するものであるため、海外や北海道内でのフィールドワーク、海外からの留学生との活動を通じて研究を深める。このように、生徒が地域の社会課題の解決に向けた学びを深め、地域づくりに参加することで、地域への愛着が深まり、主体的に考え行動する力を身に付けた地域人材を育成する。

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
北海道登別明日中等教育学校	学校長 吉村 教賢
北海道教育委員会（胆振教育局）	局長 佐野 秀樹
胆振総合振興局	局長 花岡 祐志
登別市	市長 小笠原 春一
登別市教育委員会	教育長 武田 博
登別市社会福祉協議会	会長 山田 正幸
登別商工会議所	会頭 木村 義恭
登別国際観光コンベンション協会	会長 唐神 昌子
室蘭工業大学	学長 空閑 良壽
全国大学政策フォーラム in のぼりべつ実行委員会	委員長 中原 義勝

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

- ・コンソーシアム会議において、地域ビジョンや求める人材像等を共有

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

- ・年2回コンソーシアム会議を開催し、研究開発体制を確立
- ・コンソーシアムをより有効なものにし、研究開発体制を確立するため、AKB Future Project委員会（校内の推進委員会）で役割等について検討、さらに、運営指導委員会からの助言

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

- ・旅行代理店の職員等、専門家を配置
- ・学校訪問による指導・助言（年5回）、電話やメール等による指導・助言（随時）

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

- ・登別市，胆振総合振興局，全国大学政策フォーラム in のぼりべつ実行委員会などと連携し，地域協働学習実施支援員を配置
- ・校内の地域課題探究及びキャリア課題探究部と連携

(6) 運営指導委員会の体制

- ・胆振総合振興局，登別市役所等の担当者，大学の地域政策等に関する研究者，民間企業社長等

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

- ・「HOKKAIDO 高校生ミーティング（仮）」の開催（地域協働推進校による取組の成果を周知，国際理解教育や地方創生を推進する他校との研究協議）
- ・「北海道高等学校教育課程研究協議会」における地域創生の提案
- ・「北海道高校生プレゼンテーションコンテスト」における地方創生の提案
- ・「全国大学政策フォーラム in のぼりべつ」における取組成果の周知
- ・北海道登別明日中等教育学校主催の研究成果発表会での成果の普及，研究協議会の開催

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

- ・ICT環境の整備（海外高校との交流授業の展開）
- ・教員の加配
- ・2年目以降の海外交流アドバイザーの配置
- ・「HOKKAIDO 高校生ミーティング（仮）」の実施
- ・総合的な探究の時間（地域課題探究，キャリア課題探究）の充実に向けた指導・助言
- ・グローバルな視野を醸成する取組（ICTを活用した海外の高騰学校等との交流授業，海外フィールドワークなど）への指導・助言

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

- ・事業成果の検証及び取組の精選
- ・ICT環境の整備
- ・教員の加配
- ・海外交流アドバイザーの配置

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ほっかいどうのぼりべつあけびちゅうとうきょういっくがっこう				②所在都道府県	北海道
2019～2021	①学校名	北海道登別明日中等教育学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	在籍者総数	459名
普通科	75	78	72		225	前期課程	234名
						後期課程	225名
⑥研究開発構想名	AKB Future Project 2nd Stage ～北海道と世界の明日を創る						
⑦研究開発の概要	高齢化社会が進行する日本において、地域を活性化し、あらゆる年代が住みやすい環境を整えることが必要である。地域をフィールドとして、関係機関と連携し、社会課題の解決に向けた学びを深め、解決法を提案、そして実践することで、地域への理解や愛着が深まり、主体的に考え行動する力を身に付けた地域人材を育成する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標					
		<p>Society5.0 を地域から分厚く支える人材を育むには、グローバルな視点を持ち、「主体的に考え、行動する力」を生徒に身に付けさせることが大切である。とりわけ、地域を支える人材となるためには、語学のスペシャリストとして国際理解に精通し、異文化理解を体験するとともに、地域住民や関係機関と連携を図るコミュニケーション能力が必要である。また、様々なデータを収集し分析する力等を兼ね備えた上で「よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力」を身に付けることが重要となる。</p> <p>このような資質・能力を育成するため、持続可能な開発のための教育（ESD）を踏まえて地域や関係機関とコンソーシアムを構築し、地域の活性化や自然との共生について多様な視点から考えを深めるとともに、課題解決のための具体策や政策等を生徒が提言する課題探究型プログラムの開発を行う。このプログラムにより、地域を持続可能な社会へと導く「未来を創り出す力」を持ったグローバルリーダーの育成を図る。</p>					
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説					
		<p>本事業では、SGHの実践を基に地域と連携してコンソーシアムを形成し、地域（胆振・北海道）が抱える社会的な課題（少子高齢化・防災・産業・医療・観光など）について、ESDの視点を持って解決するための方策を考える。これらの課題は、急速に高齢化社会が進行する世界各地において、地域を活性化し、あらゆる年代が住みやすい環境を整えるために解決への方策が必要とされる課題である。基本的に、胆振地域をフィールドとして課題探究を行うが、海外や北海道内でのフィールドワーク、海外からの留学生との活動を通じて研究を深める。生徒は、課題解決のための方策を、コンソーシアムの各機関の協力を得て実行する。実行力をつけ、実行後は検証、さらに改善方法を考える。このように、諦めずに取り組み続ける粘り強さを身に付けさせる。</p> <p>生徒が地域の社会課題の解決に向けた学びを深め、地域づくりに参加することで、地域への理解や愛着が深まり、コミュニティへの参画意識を高めるとともに、主体的に考え行動する力を身に付けることができる。さらに、課題探究を進める過程において、国内外の高校生や大学生、社会人など様々な年代の人と課題についてディスカッション等を行うことで、多様な視点から考えを深めることができると考える。このようなことから、グローバルな視点をもってコミュニティを支えるリーダーの育成を目指す。様々な経験から、生徒は視野を広げ、自己のキャリアデザインの確立を図ることにもつながる。</p> <p>【仮説1】</p> <p>自ら課題を見つけ、多面的・総合的に考察し、批判的・論理的思考力を高め、よりよい解決に向けて主体的に挑み続ける生徒を育成することができる。</p> <p>【仮説2】</p> <p>地域が抱える社会的な課題について学び、様々な年代の人々と関わりを持ち協働していくことで、地域への理解や愛着が深まるとともに、自ら積極的に行動する生徒を育成</p>					

		<p>することができる。</p> <p>【仮説3】</p> <p>海外の生徒や日本への留学生等とディスカッションや交流を重ね、多様性を尊重する態度や意見交換・調整力を身に付け、新たな価値の創造やよりよい社会の実現を目指す生徒を育成することができる。</p>
<p>⑧ -2 具 体 的 内 容</p>		<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>① 3回生</p> <p>(ア) 総合的な学習の時間（世界と日本・北海道のつながり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて学び、持続可能な社会づくりの視点を育成 ・次年度からの課題探究の基礎となる取組とする。 ・地域の課題について、ワークショップなど知る機会を設定、次年度からの地域課題探究の基礎 <p>② 4回生 地域課題探究 35時間</p> <p>(ア) 社会と情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマと関連するコンソーシアムの機関とミーティングを実施 ・中間報告会を実施し、グループ間で質疑応答をし、研究を深化 ・専門家からの助言を受けることや施設等を訪問調査する活動を実施 <p>(イ) 総合的な探究の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニット単位でのディスカッション、アドバイザーとの検討等を実施 <p>③ 5回生 キャリア課題探究 35時間</p> <p>(ア) 総合的な探究の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニット単位でのディスカッション、アドバイザーとの検討等を実施 ・研究テーマと関連するコンソーシアムの機関とミーティングを実施 <p>(イ) 国語表現 研究レポート演習</p> <p>(ウ) 家庭基礎 持続可能な社会や自分の生き方</p> <p>④ 6回生</p> <p>(ア) 国際観光学（選択生徒） ビジネスプラン作成</p> <p>(イ) 英語表現Ⅱ（マスターコース）英語レポート作成、発表</p> <p>(ウ) 総合的な探究の時間 卒業後のアクションプラン作成</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題探究部及びキャリア課題探究部の担当者は、各教科での学習内容や研究の進捗状況などを教科担任と連携して把握し、進行の調整を図る。 ・AKB Future Project 委員会の副委員長は、探究活動全体について、課題探究部及びキャリア課題探究部から報告を受け、生徒の探究活動の充実を図るため、全体計画の検証・改善案を作成する。 ・コンソーシアム会議で、当該年度の全体計画についての反省から、次年度に向けての計画や方向性を検討する。 ・地域協働学習実施支援員は、課題探究部（4回生）及びキャリア課題探究部（5・6回生）の担当者と連携し、各機関の担当者と生徒との連絡・調整をする。 ・コンソーシアムの各機関との連携は、AKB Future Project 委員会に所属する地域協働学習実施支援員が窓口となる。 ・コンソーシアムの各機関は、探究活動の充実を図るため、生徒の研究や活動への助言や指導及び関連機関や専門家の紹介などを行う。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>特になし</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>平成26年度から5年間、スーパーグローバルハイスクールとして、グローバル・リーダーとして求められる資質、「国際的な対話力」「課題解決力」「情報発信力」を育成するため、食糧問題をテーマとした探究学習プログラムを進めてきた。生徒の物事を考察する力の向上、国際的視野を広げることなど、この5年間で一定の成果を収めたと考える。</p>